

## 2018 年度定演期 MS ステージ選曲委員会 意見シート

ベース二年次サブパートリーダー 富田佳秀

### 選曲案

- A. 「祈る」 三宅悠太
- B. 「オムニバス 光と闇 (Lux Aurumque, Nox Aurumque)」 Eric Whitacre
- C. 「オムニバス 森の憧憬 (Kondalilla, Little Tree)」 Leek, Eric Whitacre
- D. 「フィリピン音楽の窓 (Doxologia, Gloria Patri)」 Budi Yohanes Susanto 他
- E. 「銀河鉄道の夜」 信長貴富
- F. 「Drei Gesänge」 Max Reger

### A. 「祈る」 三宅悠太

#### ○全体を通して

オール・ヴォカリーズの第一部があり、第二部からテキストが語られ始めるという構成になっていることがこの曲の大きな特徴としてあげられる。一曲目は呼吸音から静かに始まり、最低音、ハミングから vocalize と徐々に変化していき、音の収束、分散を繰り返しながら盛り上がり、第二部の語りを導く。その後は、打って変わって歌詞のついた旋律が各パート間で歌い交わされ、高まっていく。その後、落ち着きと盛り上がりを繰り返し、「人は祈ることができるのだ」で曲が締めくくられる。最後の和音の終止感の無さと non dim での切りに強い意志のようなものを感じる。個人的には、第一部は、「言葉を持たない者ら」の語りであり、「黙り、静けさを集めている」ひとがそれらに耳を澄ましているのではないかと考える。どのような解釈にせよ、vocalize だけの第一部が何を表しているのか明確なイメージを持つことが、曲全体にまとまり、説得力を持たせるために必要になるだろう。

#### ○難易度、課題点について

##### 第一部 Choral

・全体を通して、音の取りづらさはあまりなく、声域的に無茶な音もない。が、それ以外の面で音を覚えづらい曲だと思う。旋律らしい旋律がなく、音価が全体的に長いので音の変化に脈絡を感じづらい。他パートとの絡みが重要。ユニゾ

ン、ハモリを意識したい。

- ・音の変わるタイミングが難しい。全て vocalize でただでさえ取りづらいのに、めまぐるしく拍子が変わり、その上後半には三連符、十六分音符、五連符を歌い分けなければならない。しかし vocalize しかないからこそ、音の変化やそのタイミングをしっかりと取らなければ何をやっているのかわからない演奏になってしまう。には時間を多く割くことになるだろう。

- ・音は中高音が多い印象。特に後半は A 以上の vocalize が続き、強弱も大きめ。ベースの現状を考えると、高音の vocalize を綺麗に外に出せるかが課題になりそう。

## 第二部 空の下

- ・各パート旋律の部分がほとんどである。もちろんベースも。わあい。とはいえ、ベースは旋律を歌い上げることが苦手である。特に意識したいのはレガートと子音の処理。息の流れを途絶えさせずに自然な日本語で、語りのように聴かせたい。随所に出てくる「語る」の k 子音等、子音を効果的に聴かせたい。

- ・他パートと並走して歌う部分が多いので、早さを揃えることも意識したい。遅れない！

- ・旋律自体は取りやすいが転調が多い。調の切り替えをテキパキとするのが大事。音は第一部と同じで中高音が多い。息を流すこと、母音を揃えることを念頭におく必要あり。

### ○演奏会全体のステージ構成について

MM で生命賛歌の海、SM で寺山修司を歌う中で、人間の「祈り」に焦点を絞った、海とはまた違った強いメッセージ性のある曲であり、MS として歌うのも丁度良いのではと思う。

## B. 「オムニバス 光と闇 (Lux Aurumque, Nox Aurumque)」 Eric Whitacre

### ○全体を通して

ザ・Whitacre 作品という感じで華やかなクラスターが魅力のオムニバス。Lux Aurumque は一貫して落ち着いた曲調。音価が全体的に長めで、ゆっくりしたテンポの中でクラスターをしっかりと聴かせてくる。音は低めで、ラストでは low Cis まで要求される。低音で正しいピッチでハモらせることが課題になってきそう。対して Nox Aurumque は低音と高音を行き来しながら、f でドラマチック

に、華やかに歌う必要がある。和音も Lux と比べて一筋縄ではいかないものが多い印象を受けた。両曲とも高音の f はもちろんのことだが、弱音の作り方も難しい課題だろう。p でも深い母音で息を流して音を前に出し、こもらせないことが重要か。発声、音感共にかなり高いレベルのものが要求されそうである。20 コマでやるには、Nox がかなり重くなるだろう。

#### ○難易度、課題点について

##### Lux Aurumque

- ・音の難易度はそこまで高くない。臨時記号も少なく、ベースの div も五度や四度の基本的なものが多い。他パートをよく聴き、ぶつかりをよく感じられるかがポイントになる。

- ・前半は中高音域でのロングトーンが多いが、ここで声のぶら下がった低いピッチの発声になると格好が悪い。六連期のベースは中高音でピッチが下がりがちであったので、ロングトーンで体を使って支えられるように発声を強化する必要がある。

- ・後半は打って変わって音がかなり低い。バリバリに鳴らす発声というより、柔らかく豊かな響きが要求される。基礎練に脱力を意識した練習を取り入れていきたいところ。

- ・外国語の深い母音での歌かな響きを崩さないようにしたい。f で力技の発声にならない！（春と修羅とは全然違う）

- ・ベースは休符が多いがそこで音楽の流れが止まるとダサイ。休符でもポジションを下げず、曲の緊張感を持続したい。精神的な持久力が必要になってくるだろう。

- ・ppp や pp の区別も含め、強弱の変化を効果的に決めたい。最後の低音、格好良く決めたい

##### Nox Aurumque

- ・Lux の四つ目、五つ目の指摘はこちらにも共通するところである。それ以外の点について述べる。

- ・部分的に見れば音は難しくないが、休符を挟んだ次の音を取りづらそうな印象を受ける。しかしそれ以上に和音がとても難しい。自分の音の座りどころを掴むには相当耳を使わないといけない。六連期にもよくやっていた「聴く練習」を

積まないといけない。

- ・ p.3 からのベースがフレーズを立ち上げる部分、しっかり決めていきたいが、音がどんどん上がっていき最終的に Es をベースだけが歌う。そのあとのテナーの裏の E も綺麗に決めたい。さらに p.7 からの旋律を歌う部分、相当高いところで歌い上げる必要がある。これも「春と修羅」とは違い豊かな発声が必要だろう。喉の脱力と丹田、背筋を使うことができていないと厳しいか。

#### ○練習の方針

- ・ 和音が難しい分他パートの音を聴く機会を増やしたい。男声練などの他パート合同練も積極的に取り入れたい。
- ・ 高音、低音両方の発声強化。体を使う基礎練習を増やすことに加え脱力の練習を基礎練に取り入れていきたい。

#### ○演奏会全体のステージ構成について

- ・ MM、SM がピアノ付きの日本語曲で共に強いメッセージ性を持っている中、無伴奏の外国語で、美しい和音で魅せる曲なのでよく映えるのではないか。MM が一貫したテーマを持ち、SM が寺山修司の三つの作品を扱う中、二つの曲を対比させる構造である点も良いと思う。

#### C.「オムニバス 森の憧憬 (Kondalilla, Little Tree)」Stephen Leek, Eric Whitacre

##### ○全体を通して

一曲目はオーストラリアの森の中の滝、「Kondalilla」の風景を描いた癖の強い曲。女声（かソプラノ）が会場全体に散らばり、様々な擬音や声で観客を Kondalilla の風景の中に引き込む。女声が擬音を担当するが即興性と個人のセンスが問われそうだ。男性は基本ロングトーンだが途中男声のみで歌う旋律が難しい。ラストには男声がオーストラリアの奥地を擬音で表現する。決められた楽譜をなぞるのではなく演奏空間をどう作るかを個人がその場で考え、演奏に参加することになる分、生き生きとした演奏にしやすいと思う。Little Tree は親しみやすい旋律の中に Whitacre のきらびやかなクラスター和音が使われている。曲調も拍子を変えながら多彩に変化し観客を飽きさせない。ただこれをうまく歌い切るには相当な技術力を要すると思う。

##### ○難易度、課題点について

## Kondalilla

- ・正直パート練習のビジョンが見えない。音取りが済んだら中間部のテナーと歌う旋律の練習以外は何をやっていいのやら…（ラストの鳥の鳴き真似の練習でもしますか）。パートでまとめるというよりは全体でまとめる方が重要になってくるのでは。

- ・唯一練習ビジョンが見えるテナーと歌う旋律は、テナーとベース、もしくはバリトンとローベース同士が全音でぶつかりまくる。ピッチ、母音の形を合わせる練習が必要。あとはロングトーンのピッチが下がらないようにすることくらいか。

## Little Tree

- ・パートだけで見ると音は割と簡単だが、和音は難しめ。音価の細かいところは単純な和音の中にふっと出てくるぶつかりをオシャレに聴かせたい。瞬間的に音の座りどころを見つける耳が要る。

- ・ローベースは高い音もなく歌いやすいだろうが、バリトンが中高音で歌うことが多く、最後の方ではEsを連発する上、テナーと長2度でハモらないといけない。かなり難しいがラストの綺麗なナインスコードを決めて締めるにはこの綺麗なぶつかりはしっかりきめたい。光と闇でも書いたが、体を使った高音の発声、他パートと母音を揃えることなどが必要になってくる。

- ・四分刻みから付点四分刻みに切り替わるところで乗り遅れないようにしたい。ベースは遅れがちになることをよく指摘されるので、自分から前に音楽を持っていく意識が必要か。

- ・深い母音も必要だが、光と闇と違うのは音価が細かく短時間で母音が変わるところ。母音で響きの位置が変わらないようにしたい。また子音も丁寧に作りたい。

## ○演奏会全体のステージ構成について

一曲目があまりに特殊なだけに演奏会の中で映えないということはないと思う。体感性をテーマにするなら一曲目の演出の方を練る必要がある。

## D.「フィリピン音楽の窓 (Doxologia, Gloria Patri)」 Budi Yohanes Susanto 他

### ○全体を通して

落ち着いた雰囲気の一曲目と、一転してアップテンポの二曲目という構成(そ

ういうの好き)。テキストはどちらもキリスト教の教会典礼とのことで、一曲目はそれこそ宗教曲らしさがある。長い音符を各パートで重ね、和音をしっかりとめながら曲を進行させていく。かなり持久力が必要になるだろう。対して二曲目は、「本当にこれキリスト教のテキストなんすか？」というくらい民謡チック。テンポもかなり速い（少なくとも参考音源の演奏は）。中間部で落ち着きを見せるが以前土着っぽい音である。構成的にややアカペラっぽくに聴こえるところも？変化に富んでいてとても面白い曲だが難易度は高いと思う。

### ○難易度、課題点について

#### Doxologia

- ・ 下降音型をパート間で交互に歌っていく部分がテーマになっている。響が下がらないように気をつける。
- ・ 音は高すぎるものもなく歌いやすい。音程も取りやすいが、低音は Es まで要求される。ピッチを正確にして低音の五度をしっかりとめたい。
- ・ 課題となるのはやはりぶつかりか。ゆっくりしたテンポの曲なのではめやすいとは思いますが、休符がほとんどなく、常に耳を使う必要がある。
- ・

#### Gloria Patri

- ・ 参考音源通りにやるならテンポがかなり早いため、16 分で刻む男声の言葉の処理、テンポキープが課題になる。六連期の春合宿にやった手を叩く練習など、リズムを周りと合わせる練習を地道にやっていく必要があるか。また、冒頭の低さ、さらに f であの速さだと、口の周りに力が入ってハモらない声質になってしまいそう。深く、かつ息を流した発声を意識したい。
- ・ ベースの音はさほど難しくない印象。繰り返しも多いので譜面の分量の割に音取りの苦労は少ない。ただ要所要所におしゃれな和音があるのでそれはしっかりとめていきたい。加えて全体的に音符がめっちゃ細かい。9 小節目からはベース内で div っている（しかもぶつかる）。瞬発力、音を瞬時に正確にはめる耳がいる。
- ・ Doxologia とは別の持久力が必要で、瞬発力を維持できるかが課題。ベースの現状からだと今の発声では後半バテがちになってしまうと思われる。

### ○練習方針

・二曲とも音はさほど難しくないが、その後の作り方が重要になってくると思う。一曲目は耳の使い方と強弱、二曲目はそれに加えて言葉の処理と発声が鍵か。特に発声は一朝一夕でどうにかなる問題ではないので、毎回のパート練習の中で体を使っていくことを意識していきたい。継続が大事。

#### ○演奏会全体のステージ構成について

今の MM, SM と合わせるならこのオムニバスが一番好きかもしれない。和音をじっくり聴かせる一曲目と、曲調の変化と速いテンポで見せる二曲目の対比が良い。二曲目のような民謡っぽい楽曲をやるのは、過去に歌った曲を見ると柏葉らしくないかもしれないが、だからこそやってみたいんですなあ。

#### E.「銀河鉄道の夜」信長貴富

##### ○全体を通して

風景描写がすごい曲。距離感、機関車の擬音、銀河の星の絢爛豪華な感じが音に現れていて、目の前にありありと映像が浮かんできそう。ところどころに信長先生の独特な音の使い方が現れていてそれも魅力的（譜面見たら、「うわー、信長先生だあ〜w」みたいな感じになると思う多分）。曲の感じは柏葉にぴったりなのでは。音の正確さや、発声を洗練させることにはもちろん取り組むが、その先に何を表現するかが重要になってくる。柏葉の得意分野では？音の難易度は高そう（機関車の擬音やドップラー効果の表現など）だが、取りきってしまえば作り込めば作り込むほど面白くなりそう。

##### ○難易度、課題点について

・冒頭、高音のファルセットから。ファルセットの練習はあまり取り組んできていないので指導には研究が必要かと思う。そしてそれ以上にびっくりなのが3divである（まじか）。譜面を見ると尻込みしてしまうが、そこまで難しくはない。

・41 小節からからベースがテナーとタイミングをずらして主旋律を歌い交わす（ここの主旋律の節回し、めっちゃ好き）。全体的に高く、オクターブ跳躍などもあり難関。Cis 付近で発声が潰れないようにしたい。

・音は部分的にとっても難しい。ピアノの音から機関車がゆっくり動き出すところ、グリッサンドや「ガッタンコ」の不協和音が難しい。「ウォーウォー」地帯

は半音階の音が正確に取れるかが課題。三角標が通り過ぎて行くところ、ベースが遠ざかるところ担当。高い上に音を取りづらそう。かなり苦勞しそう。

・107 小節「くるみの木」以降はベースが呼びかけ役。語りのセンスがいる！死因の出し方、明るく外に出る発声に気をつけたい。他にも 140 小節以降の「さそりの赤目がみえたころ」など、ベースが主旋律を歌う機会が多い。レガート、子音の処理はもちろん、自分から歌いに行く姿勢が重要。

・F 部分からの主旋律の掛け合いの部分など、縦をしっかり揃えていきたい。リズムをパート間で共有する。

・強弱のつけ方を練ることに加え、子音で聞かせることが重要。特にラストのハルレヤ地帯、信長先生の作品らしいドラマチックさを出したい。

#### ○練習の方針について

・各所で必要とされる音色の違いをしっかりと出していく必要があると思う。しかし表現に躍起になって音をなおざりにすることはしたくない。どちらもバランスよくやっていく必要がある。またベースが主旋律をレガートで自然に語るには発声の強化が重要。前の案で書いたことと重複するが、体を使っていきたい。

#### ○演奏会全体のステージ構成について

・音で風景を表現する、音を楽しむ、という点では MM、SM との差別化も図れ、面白いと思うが、強いていうなら MM、SM 共に日本語曲でドラマチックな感じという点で被るか（そこまで気にならないと思うけど）。

### F. 「Drei Gesänge」 Max Reger

#### ○全体を通して

ドイツ語の古典宗教曲集。ゆっくりとしたペースの曲が多いが、曲調が激しく高音を要求されるところもある。一曲目は二群だが、ベースに関しては全体的に、Chor1 は音が高く、Chor2 は低いので、前者はバリトン、後者はローベースが中心になるか。全曲通して深い母音作りとドイツ語の発音が課題になるのはもちろんだが、強弱の違いをしっかりと出していきたい。p と f が交互に現れる部分が印象的。しっかり決めたい。



## ○難易度、課題点について

### 全曲共通

・ゆっくりのテンポで強弱の指示が数小節にわたって書かれているので、山の部分の維持がめちゃ難しそう。ブレスを深くまで入れてちゃんとした発声で、全てのフレーズを歌い切るのが理想だろうけど…レベル高い。

・p と f の差をしっかりと出していきたいポイントがたくさん。弱音でも前に鳴らしたい

・バリトンの高音強化を図りたい。E までを綺麗に出せるのが理想。

### 一曲目

・唯一この曲だけ二群だが、音は難しくない印象。パートが多い分他パートの音の動きを感じつつ和音を聴くのが難しそう。二群の練習についてだが、先に述べたようにベースに限っては一群をバリ中心、二群をローベース中心にすれば div 感覚で取れそう。

### 二曲目

・音の難度も高いがやはりフレーズの長さ。そしてバリトンは高音ぜめである。テナー、バス 1、バス 2 をどう分けるかは今の所わからないが、バス 1 をバリトンだけが担当することになる場合、相当しんどい。発声の強化が必須。

### 三曲目

・前の二曲と比べ落ち着きのある曲だが音の難度は依然として高め。各和音をしっかりとめていきたい。

### 四曲目

・音の難度は前半ぐっと下がるが、最後の段で音の高さも難度も一段アップ。長いフォルテ地帯を歌いきる体力がいる。

### 五曲目

・参考音源には含まれていないが竹村さんの資料にはあるので一応。音は、「絵、その音の後にそこ行くの？」みたいな感じでとりづらめ。f のところが多く体力がいりそう。

## ○練習方針について

・耳を使いつつフォルテで長い間鳴らすマルチタスクをこなさないといけない。発声強化のための地道な練習を重ねたいところ。

○演奏会全体のステージ構成について

・外国語ということ、古典音楽であることで MM,SM との差別化ができ、ある程度映えるとは思いますが、それ以外にこの曲集を積極的にやろうとするモチベーションはあまりない。ただでさえ地道な作業を要するので、この曲の魅力を見出さないと、これのコマを持つのは正直言って厳しいかな…。